

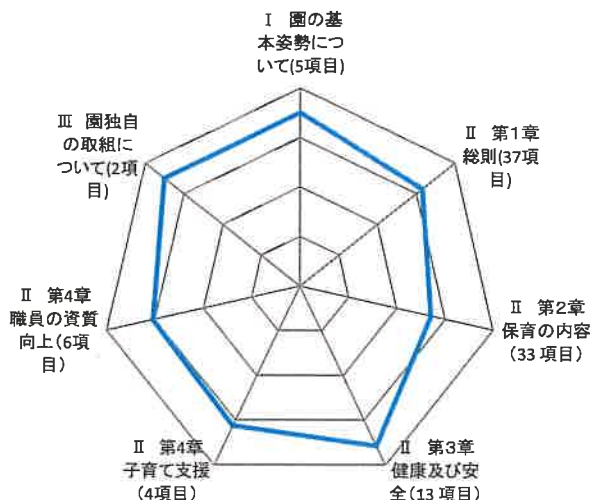
当園では、保育者一人ひとり、また保育園全体の質の向上を図るため自己評価を実施しました。

<評価方法>

十分理解できている(十分にできている)…◎3点 理解している(できている)…○2点 ふつう…▲1点 努力が必要…×0点

集計結果

回答人数	9人			
	2021年6月実施			
評価	◎	○	▲	×
I 園の基本姿勢について(5項目)	20	21	3	1
II 第1章 総則(37項目)	144	102	64	9
第2章 保育の内容(33項目)	89	91	87	22
第3章 健康及び安全(13項目)	59	45	12	1
第4章 子育て支援(4項目)	10	19	7	0
第5章 職員の資質向上(6項目)	17	25	8	5
III 園独自の取組について(2項目)	11	3	3	1



《自己評価総評(気づき・振り返り・改善点等)》

- ・コロナ禍で“今までどおり”ができないことが多く、新たなチャレンジをする際に“これでいいのか”と悩むことがあったが、職員間の連携で無事に終えることができた。“報告・連絡・相談”の大切さを改めて感じ、今後も欠かさないようにしていきたい。
- ・新型コロナウイルス感染防止策について、より園生活での衛生面や安全性を強化していくために職員だけではなく、3歳以上児を中心に子どもたちも理解を深める機会があってもよかったのではないかと思う。
- ・保護者のニーズは様々で理解が難しいこともあったが、誠意を持った対応に努めた。日頃から信頼関係が築けるように努力を重ね、保護者や子どもに寄り添う保育を心がけたい。
- ・子どもたちが「やりたい」「やってみよう」とする気持ちを持つことがあっても、寄り添えないことがあった。いろいろなことに興味や関心を持つこと、友達の影響を受けながら成長していくことなどを考慮し、余裕を持った環境づくりを行っていきたい。
- ・就学に向けて、基本的な生活習慣の自立、読み書きの理解など生活の中で工夫が必要だったと感じた。行事などが重なると時間などの余裕がなくなるが、計画的に保育を進めることで一人ひとりの課題や伸びしろを把握し、家庭と連携しながら就学への準備が進められるのではないかと感じた。
- ・複数担任クラスでは、子ども一人ひとりの発達面や家庭環境、日常の保育内容など小さなことでも話し合い、共有しながらそれぞれの思いを伝え合うことができた。
- ・特別保育(障害児保育)では、できることを伸ばす、褒める、苦手なことへの支援、言葉かけの工夫を担当同士の共通理解として捉えることができた。加配の職員配置や支援方法などを話し合い、立場を超えて意見交換をしたことにより、一人ひとりに向き合うことができた。
- ・自己評価をする中で、保育指針の内容やねらいなど、努力を要する箇所を改めて気づくことができた。指針は子どもたちと関わる中で一番大切な基礎となる部分なので、この機会に再度学び、理解を深めていきたい。